

清流 ニュース

発行所 八王子市子安町 1-22-25
清流寺
清流ニュース編集室
電話 (042) 646-0287 (代)
FAX (042) 644-1164

平成二十五年 度 総 祈 願
日 上 人 御 千 七 回 忌 報 恩 御 奉 公 成 就
教 化 必 成 教 務 員 増 加 報 恩 御 有 志 自 標 達 成 完 納 成 就
羽 村 別 院 改 修 成 就 之 御 願
佛 立 菩 薩 増 加 助 行 運 動 推 進
役 中 後 継 者 養 成 法 灯 相 続 促 進

弘 通 年 度 前 期 〆 切
五 月 末 日
平 成 廿 四 年 十 二 月 一 日 以 来
平 成 廿 五 年 度 の 弘 通 年 度 が 始
ま っ て お り、今 月 末 を も っ て
前 期 教 化 運 動 の 締 め 切 り と な
り ます。

五 月 朝 参 詣 強 調 週 間
二 日 〆 四 日
第 三 連 合 と 昭 島 教 区

五 月 の 御 総 講 日
一 日 十 時 御 修 行 日
七 日 九 時 半 バ ス 送 迎 日
日 上 人 報 恩 祈 念
十 三 日 十 時 高 祖 御 命 日
十 七 日 十 時 開 導 御 命 日
廿 五 日 十 時 門 祖 御 命 日

特 別 行 事
十 二 日 十 時 三 十 分 始 予 定
第 八 世 講 有 日 歡 上 人 御 会 式
晴 天 祈 願
五 日 〆 十 一 日
第 一 座 六 時 〆 七 時 半
第 二 座 九 時 半 〆 十 時 半
會 議
一 日 御 総 講 後 役 中 會 議
廿 五 日 御 総 講 後 教 区 長 會 議
日 参 事 会

5 月 12 日 10 時 30 分 当 山 草 創 日 歡 上 人 御 会 式 家 族 そ ろ っ て 御 参 詣

新 緑 の 羽 村 別 院 で

五 月 三 十 日 は、第 八 世 講 有 日 歡 上 人 の 祥 月 御 命 日 で す。
当 山 は、日 歡 上 人 を「当 山 草 創」と 仰 ぎ、毎 年 ご 祥 月 の 五 月 に 歡 尊 会 を 奉 修 さ せ て 頂 い て お り ます。
日 歡 上 人 は、第 四 世 講 有 日 教 上 人 の 高 弟 と し て 得 度 さ れ、荒 寺 だ っ た 乘 泉 寺 を 僅 か 数 戸 の ご 信 者 と 共 に、関 東 以 北 の ご 弘 通 に ご 尽 力 ぐ だ さ い ました。
日 歡 上 人 の 御 事 は、い ま ま で も お 知 ら せ し て ま い り ま した が、上 人 は 明 治 廿 七 年 七 月 一 日、第 二 世 講 有 日 聞 上 人 より、ご 剃 刀 を 受 け、日 教 上 人 の 御 弟 子 と な ら れ ました。
日 歡 上 人 が 乘 泉 寺 を 受 け 継 が れ た 当 時、常 識 で は 考 え ら れ ない 荒 れ よ う で、御 尊 像 の ご 礼 盤 は、塔 婆 の 板 で 打 ち つ け、雨 漏 り は す る し、本 堂 の 畳 は ボ ロ ボ ロ と い う あ り さ ま で し た。
こ の よ う な 情 況 の 中 を、上 人 は 朝 三 時 に 起 床、七 時 迄 一 万 遍 の 口 唱 を 重 ね ら れ た と 聞 い て お り ます。
そ の 上 人 の 熱 意 が 旧 檀 家 に も 通 じ て、朝 参 詣 も 二 人、三 人 と 増 え、日 歡 上 人 の ご 信 念 と し て 言 い 伝 え ら れ て い る ご 信 条 と も 申 す べ き こ と を、改 め て ご 披 露 さ せ て 頂 き ます。

こ の 三 つ を 心 に 誓 わ れ ぐ 奉 公 さ れ た と い わ れ て い ます。
年 に 一 度 の 歡 尊 会 は、こ う し た 日 歡 上 人 の ご 信 心 前 を お 手 本 と さ せ て 頂 く 絶 好 の 機 会 で も あ り ます。
新 緑 の 多 摩 川 の ほ と り の 別 院 へ 家 族 そ ろ っ て 御 参 詣 い た し ま し ょ う。
当 日 は、J R 羽 村 駅 以 上 送 迎 バ ス が 運 行 さ れ ます。

「いつでも諸天の守護を蒙り、
「転重軽受」「逆即是順」の現
世安穩。臨終に際しては、「浄
土参拝」「成仏」の大果報を頂
くという「後生善処」のお計
らいに常に浴している信心前
になつたときをいうのであり
ます。
又、よく「信行増進」等を祈
願言上いたしますが、たゞ個
人的に御宝前に祈願しても、
仲々そうはなりません。
「おのれ達せんと欲すれば
先づ他人を達せしめよ。己れ
の信心増進の爲には人を教化
せよ。人を折伏すれば我信心
上る。人を折伏せざれば我信心
下る。故に我身罪障消滅の
爲には折伏第一也」と云々。故
に当宗は折伏宗也。信心宗也。
折伏せざれば利生頭はれず、
法弘まらず。人を助けがたし、
と御指南下されてあり、ひ
との爲にも、おのれの爲にも
「教化」をしなければ「佛立信
心」にならないのです。
「ともあれ教化を」というのが
本月の御妙判です。
法華経の御心なるぞ信者達
折伏をせよ、皆が皆まで

本月の御妙判

ともあれ教化を



「上行所伝の一大秘法とは
題目の五字也此五字を我も唱
へ人にもすゝむる処が則此経
の御本意也」(出離大要抄)
昔の職人は親方についてあ
る一定期間只働きをしました
が、これが、「年季奉公」とい
うもので、仕事を覚えるのが
主で、この場合「どのくらい
働いたから、いくらになる」

という事には関係がなかった
ようです。
五年で半人前、十年経つて
一人前十五年経つと他人に教
えるようになるといふます。
教わつたことを自分自身が
やつてみて、それらはすべて
トライアル・アンド・エラー
と申します。つまり「試行錯
誤」の連続であり、やつてい
るうちにエラーがだんだん
減つてゆき、遂にはトライア
ルだけになるのが楽しみで、
それが職人の生き甲斐であつ
たということでもあります。
最初は何事でも仲々難しい
ものであるがともかくトライ
アルしなければ話になりま
せん。やつているうちにやれ
るようになり、それがまた楽
しみともなるのであると御
指南下されてあります。法
華経の信心お祖師様から頂
いたわれらの「佛立信心」と
は、定業墮獄と決まつてい
る凡夫の業を転じて成仏せ

るうちにエラーがだんだん
減つてゆき、遂にはトライア
ルだけになるのが楽しみで、
それが職人の生き甲斐であつ
たということでもあります。
最初は何事でも仲々難しい
ものであるがともかくトライ
アルしなければ話になりま
せん。やつているうちにやれ
るようになり、それがまた楽
しみともなるのであると御
指南下されてあります。法
華経の信心お祖師様から頂
いたわれらの「佛立信心」と
は、定業墮獄と決まつてい
る凡夫の業を転じて成仏せ